

1 はじめに

私は今回の介護実習で、90代の女性利用者を受け持った。構音障害や難聴があるため、コミュニケーションをとるのが難しく、他の利用者と関係を築くことができずにいた。また10月の実習では利用者が風邪をひいたため、居室での生活が中心となり、活動意欲の低下が見られた。利用者の思いや状況から、居室での余暇活動を実施し、コミュニケーションをとりながら楽しく活動していくことで、自己表現や活動意欲の向上につなげることができると考え計画を立てた。そこで、利用者の状況と今回のケアの方法を振り返り、よかった点と改善点をはっきりさせ、今後の課題を明確にするためにこの報告書をまとめる。

2 事例概要（受け持ち期間：平成25年6月10日～6月21日  
平成25年10月1日～10月22日 計25日間）

(1) 生活歴等

Cさん、90代前半、女性。特別養護老人ホームには一年前に入所。4人兄弟の長女として生まれる。中学校卒業後金属屋で働き、20代前半で結婚、1人息子を出産し、その後は専業主婦をしていた。既往歴は脳梗塞、後遺症として構音障害や左片麻痺がある。また、現病歴は脳血管性認知症、高血圧症、腹部大動脈瘤、胆石がある。

(図1参照)

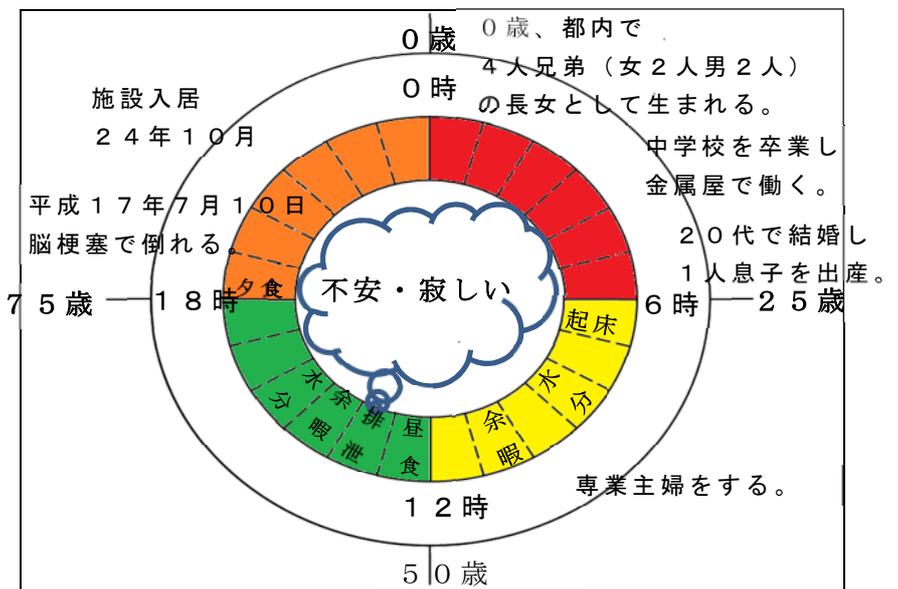


図1：ライフサークルチャート

(2) ADLの状況

生活全般は、ほとんど見守りや介助が必要である。

認識面では、難聴のためコミュニケーションをはかるのが難しいが、他の利用者とのコミュニケーションをとりながら楽しく活動していきたいと思っている。整容にも気を遣い、朝起きて人前に入る時にはくしと鏡を持ち、自分で髪型を整えようとしている。また、入浴が好きで、風呂に入りたいと思っている。

行動面では、一人でトイレに移動して排泄をしようとするのがあり、転倒のリスクが考えられる。

(図2参照)

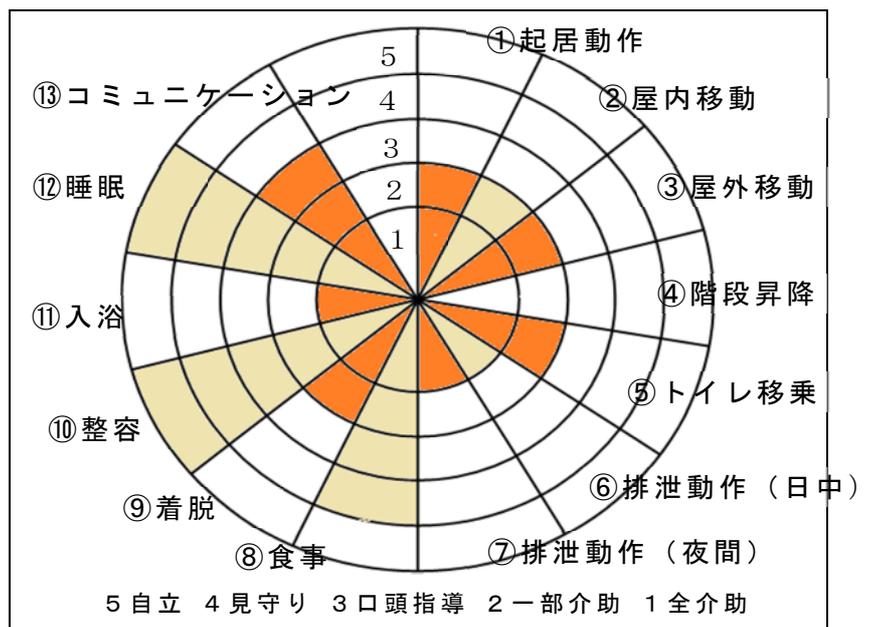


図2：活動：ADLチャート

### 3 介護過程の展開

#### (1) アセスメント

アセスメントシート（表1）を用いて、6月と10月にアセスメントを実施した。「コミュニケーション・余暇活動」では、折り紙のおり方を覚えており、他の利用者と一緒に活動をしたいと思っている。①④⑩より、他の利用者ともコミュニケーションをとりたいと思っている。⑨より、歌を歌うことが楽しいとわかる。また⑦より、手足が痛いため折り紙などの活動はしたくないと思っている。②③⑤⑥より、入浴したいと思っている。また、入浴すると気持ちいいと思う。10月では風邪を引かれており、居室での生活が続いていることから、⑪⑫⑬⑭より活動の意欲が低下し、「寝たい」と思っている。⑯⑰より、風邪を引かれているがお風呂に入りたいと思っている。

難聴のため他の利用者の話が聞き取れず、コミュニケーションがうまくとれないため、仲介にはいりコミュニケーションがとれるようサポートしていく必要がある。しかし居室での生活が続いているため、実習生がコミュニケーションをとり、楽しく生活を送れるようにしていく必要がある。また手足の痛みを軽減させ、居室でも楽しく活動し、活動意欲を向上させる必要があると考えた。

以上より、満たされないニーズとその理由として、

- i 手足が痛く、また風邪をひいたために居室での生活が続いていることから活動意欲が低下しているため、手足の痛みがなく楽しく活動したいというニーズが満たされていない。
- ii 難聴であることや居室での生活が続いていることから、コミュニケーションをとるのが難しいため、コミュニケーションをとりたいというニーズが満たされていない。

以上の2つがあげられる。

表1：アセスメントシート（抜粋）

|   |  |  |
|---|--|--|
| <p># 2-2<br/>自分の好きな活動をし、他の利用者とコミュニケーションをとりながら楽しく活動する。<br/>(10/7~3/31)</p> | <p># 2-2-①<br/><del>他の利用者と一緒に折り紙などを行い余暇の時間を楽しむ。(10/7~10/22)</del><br/>↓修正(10/4)<br/>居室でもコミュニケーションをとりながら余暇を楽しむ。(10/7~10/22)</p> | <p><u>①活動意欲を向上させ、コミュニケーションをとりながら余暇の時間を楽しくていただくために</u><br/>1) コミュニケーションをとりながら折り紙や塗り絵の活動を行う。<br/>2) <del>居室から出て他の利用者とコミュニケーションをとるきっかけになるよう絵本を作成する。</del><br/>↓修正(10/11)<br/><del>歌詞カードを作る活動を行い発語を増やす。</del><br/>↓修正(10/18)<br/>歌にちなんだ塗り絵の活動を行い、歌を歌いながら楽しく活動する。<br/>3) 離床時間を増やし、活動意欲を向上させ、楽しんでもらえるよう余暇活動を行い、生活リズムを整える。<br/>4) 作ったものと一緒に利用者と写真を撮り、整容を視覚でも楽しんでもらえるようコルクボード作成を行う。<br/>(写真を撮ることで整容を気にし整えてもらえるようにする)</p> |
|---|--|--|

### (3) 援助の実施

◆# 2-1-①-1)・2)・3)・4) 手足の痛みをなくし、居室でもリラックスし楽しんでもらえるよう足浴を行う。

#### i 方法

余暇活動への参加を拒否されたり、手足の痛みの訴えがあった時など、利用者の好きな入浴に近い足浴を実施した。少しでも居室でリラックスして楽しいと思ってもらえるよう、コミュニケーションを取りながら、浴剤を使用したりマッサージを行い、離床時間を増やすことにつなげるよう支援した。

#### ii 工夫したこと

居室でも楽しんでいただけるよう足浴に入浴剤を使用した。また入浴剤の種類をいくつか用意し香りを選んでもらうなど、香りを楽しみリラックスしていただけるよう工夫した。また、拘縮予防のために足浴後はマッサージを行った。

#### iii 注意したこと

実習生の爪が伸びていないか確認し、皮膚を傷つけないよう注意した。足浴やマッサージを終え、リラックスしていただけたところで鏡とくしを渡し、頭髪を整えてもらうよう促した。

#### iv Cさんの反応

足浴を行うと、「気持ちいいわあ。」や「いい匂いねえ。」とリラックスした様子が見られた。香りを選んでもらうと、「昨日はこれだったから今日はこっち。」と言い、楽しそうに香りを選ぶ姿が見られた。また、余暇活動の参加を手が痛いことから断られたため、「足浴や手足のマッサージをやりませんか？」と声掛けしたところ、「マッサージしたらよくなるかもねえ。」と足浴に積極的に参加してくれた。「ありがとう。」「手が軽くなったわあ。」と笑顔で言い、足が暖まり血液の循環も良くなったように見られた。

◆2-2-①-1)・2)・3)・4)

コミュニケーションを取りながら活動時間を増やし、楽しく生活を送ることができるよう、利用者の得意な折り紙や塗り絵を一緒に行う。また活動を断られた場合は、視覚で楽しんでもらえるようコルクボード製作を行ったり、歌をうたったりして楽しんでいただく。

#### i 方法

最初は絵本作りを計画していたが、風邪をひいてしまったため、無理なく活動してもらうために、歌詞カード作りに計画を修正した。しかし、なかなか活動意欲の向上が見られなかったため、できるだけ離床して活動してもらえるよう、利用者の得意な折り紙や塗り絵を使い、壁の装飾としての作品作りを行った。また、手が痛いときには視覚で楽しんでいただけるよう、援助者が利用者の前で折り紙を折ったりなど、少しでも離床時間を増やしていけるよう支援した。

#### ii 工夫したこと

利用者が集中できる時間(40分程度)で完成できるような塗り絵を提供し、利用者と一緒に作品を作り達成感を味わうことで今後も活動を続けたいと思うよう工夫した。また、塗り絵を利用者の好きな童謡にちなんだものにし、歌を耳元で実習生と一緒に歌うことで発語が増えるよう意識した。作品を完成させたところで作品と利用者と一緒に写真を取り、写真を撮ることで整容などを気にしてもらおうことにつなげていけるよう工夫した。

#### iii 注意したこと

活動を断られたときは、視覚で楽しんでもらえるように工夫した。例えば利用者が塗った塗り絵に実習生が装飾を加え、それをコミュニケーションを取りながら見ていただいた

り、コルクボードに写真を一緒にはってもらったりするなど、無理のない活動を行った。

#### iv Cさんの反応

塗り絵に誘うと、手が痛いなどと言い断わられてしまったこともあったが、午前中に足浴やマッサージをし、午後に余暇活動を行うことで、活動に参加してもらうことができた。塗り絵が完成すると喜ばれ、「きれいに塗れたわねえ。」と言ってくれた。完成した作品と写真を撮るときには、笑顔で写真に向かってピースをするなど活気も見られた。また、撮った写真を見て冗談を言ったり、大笑いしている様子も見られた。午前中に塗り絵を完成できなかった時は、「さっきのやつ決まりつけちゃお。」と言い、午後も続けることがあった。コルクボードの作成では、写真を貼ったりするところを見てくれ、貼り終わると「よくできたわねえ。」「かわいいわあ。」と貼る作業に興味を示してくれ、褒めてくれた。

#### (4) 評価～効果と課題～

足浴やマッサージを行ったことによって、「手が軽くなったわあ。」という言葉があった。余暇活動の参加を断られたときには「足浴しませんか？」と声をかけることによって、「やったら楽になるかもねえ。」と言い、前向きな姿勢で参加してくれ、離床時間を増やしていくことができた。

余暇活動では、風邪をひいていたため、無理なく活動できるように塗り絵を行った。完成したときは、「きれいに塗れたわねえ。」と嬉しそうに作品を見られていた。午前中に塗り絵を完成できなかったときは、午後に「さっきのきまりつけちゃお。」と言って活動する場面もあった。手が痛いからと言って活動しない日もあったが、しだいに活動時間が増えた。集中できる時間が40分になり、1時間半活動してくれたこともあり、離床時間が増え、生活リズムの形成につなげていけることができたため、一定の効果が見られたといえるので、この計画は続行とする。

だが、1時間半活動した日は午後になると、「寝たい。」という発言が多くなってしまったことから、バランスよく離床し、生活リズムを形成していくことが今後の課題といえる。

#### 4 考察

今回の実習では、利用者に寄り添い、状況に応じた介護計画を立案、実施することの大切さを学んだ。6月の実習では利用者に構音障害や難聴があり、どのように関わっていけばよいか苦戦した。しかし、自分からほとんど話すことのない利用者の思いやニーズを導きだしたいと思い、利用者に寄り添い、少しずつコミュニケーションをとっていった。ニーズを導きだし、実施していくことによって、Cさんは笑顔で生き生きとしている様子を見ることができた。

10月の実習では利用者が風邪をひいてしまい、活動意欲が低下していた。利用者に無理なく居室でも楽しく活動してもらうため、計画の修正をした。利用者の好きな入浴に近い足浴を実施したところ、徐々に活動に参加してもらえるようになり、笑顔もたくさん見られとてもうれしくなった。さらに6月では実習生のことを忘れていたが、10月では顔や名前を覚えてくれ、一緒に歌を歌ったり、利用者から話しかけることも増え、信頼関係も少しずつ築けたように感じた。

このようなことから、利用者に寄り添いニーズを見つけていくことの大切さや、状況に応じた介護計画を立案、実施していくことで、利用者が生き生きとしたその人らしい生活を送ることができるということを学ぶことができた。

#### 5 参考文献

石野育子編：最新介護福祉全書7介護過程、メヂカルフレンド社、2013.



## 活動の充実のために行った支援の 効果(生活リズムの形成)と課題



2013. 11. 29  
千葉県松戸向陽高等学校  
[福祉教養科]  
3年7組26番 千葉 愛美



## はじめに。。。

- 90代の女性利用者Cさん
- 構音障害や難聴があり、コミュニケーションをとるのが難しい
- 10月では風邪を引かれ居室での生活がつづく
- 活動意欲の低下がみられる

自己表現や活動意欲の向上につなげることができるよう支援

## 事例概要 基本情報 Cさん 女性 90代

要介護度3  
障害高齢者の日常生活自立度 B2  
認知症高齢者の日常生活自立度 IIIa  
現病歴 左半身麻痺・構音障害・脳血管性認知症  
腹部大動脈瘤・胆石・高血圧症  
現在8種類の薬を服薬

難聴がありコミュニケーション  
を取ることが難しい。





## ジェノグラム

## Cさんのライフサークルチャート

不安・寂しい

## ADLチャート

### 6月のアセスメント

- 構音障害や難聴があり他の利用者とコミュニケーションをとることが難しい
- お話や歌が好き
- 手足の痛みがある
- 折り紙や塗り絵ができる
- 入浴が好きである



### 10月のアセスメント

#### 「風邪を引き居室での生活が続く」

- 手足が痛いため折り紙などの活動はしたくない
- 離床してもすぐ「寝たい」と言うなど活動意欲の低下がみられる
- 入浴がしたいと思う



### そのことから。。

- i 手足の痛みなく楽しく活動したい
- ii コミュニケーションをとりたい

#2「手足の痛みがなく自分の好きなようにコミュニケーションをとりながら楽しく活動したい」

### 介護計画立案 長期目標

- #2-1 手足の痛みや硬縮を悪化しない (10/7~3/31)
- #2-2 自分の好きな活動をし他の利用者とコミュニケーションをとりながら楽しく活動する (10/7~3/31)



### 短期目標

- #2-1-① ~~手足の痛みを和らげ拘縮を予防する。(10/7~10/22)~~
- #2-2-① ~~他の利用者と一緒に折り紙などを行い余暇の時間を楽しむ。(10/7~10/22)~~

### 短期目標

- (10/4) ↓修正後↓
- #2-1-① 手足の痛みなく、居室でリラックスして生活する。(10/7~10/22)
  - #2-2-① 居室でもコミュニケーションをとりながら余暇を楽しむ。(10/7~10/22)



### 支援方法

- #2-1-①
- 手足の痛みを和らげ居室でリラックスして生活するために。



Cさんの好きな入浴から。。。↓

- 足浴
- 手足のマッサージ



### 工夫したこと

- 入浴剤の使用
- 香りの選択
- 香りでリラックス効果
- 足浴後のマッサージ
- 整容を促す



### 注意したこと

- 利用者に同意を得る
- 援助者の爪が伸びていないか確認
- 皮膚の状態の確認
- マッサージの力の加減
- お湯の温度
- 体調・時間
- 冷えないよう素早く拭き靴下をはく



### Cさんの反応

- 「気持ちいいわあ」
- 「いい匂いねえ」
- 「昨日はこれだったから今日はこっち」
- 「ありがとう」
- 「手が軽くなったわあ」



### Cさんと。。。↓

足浴を行うことでリラックスしていただけた様子を見ることができた。



### 支援方法

- #2-2-①
- 居室でもコミュニケーションをとりながら余暇を楽しむために



- コミュニケーション
- 折り紙・塗り絵
- 歌を歌う
- 写真を撮りコルクボードの作成



## 工夫したこと

- 利用者の集中できる時間を確認
- 作品を完成させ達成感を味わう
- 利用者の好きな童謡の塗り絵
- コミュニケーションをとり発語を増やす
- 歌を一緒に歌う
- 写真を撮り整容を気にするようにする
- 視覚でも楽しんでもらえるようにする



## 注意したこと

- 無理なく活動する

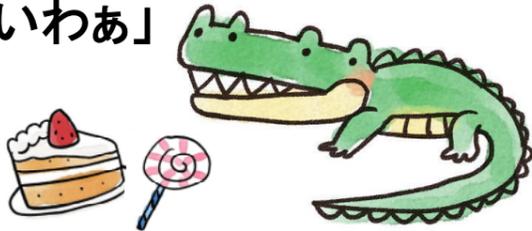
(例)

手が痛いときには足浴を行ったり、視覚で楽しんでもらえるよう利用者塗った塗り絵に実習生が装飾し、コミュニケーションをとりながら見てもらうなど。。。



## Cさんの反応

- 「きれいに塗れたわねえ」
- 「さっきのやつ決まりつけちゃお」
- 「よくできたわねえ」
- 「かわいいわあ」



## 作品



## 作品



## 作品



## 足浴と余暇活動を行って

- 「手が軽くなったわあ」
- 「やったら楽になるかもねえ」・「さっきの決まりつけちゃお」と前向きな姿勢
- 「寝たい」との発言の軽減
- 写真を撮ることで整容を気にするようになる



## 評価(効果と課題)

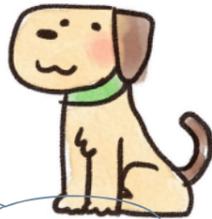
- 離床・活動時間が増える
- 集中する時間が40分が増える



生活リズムの形成につながった  
**「バランスよく離床し生活リズムを形成していく必要がある」**

## 考察

- 利用者に寄り添い状況に応じた介護計画の作成・実施
- ニーズを見つけ出す
- コミュニケーションをとる



笑顔で生き生きと、その人らしい生活を送ることができる

## 謝辞

- ご清聴ありがとうございました！！
- この場をお借りして。。
- 30日間お世話になった実習施設の方々
  - 利用者さん・Cさん
  - 先生方
  - 3-7組のみんな
- 支えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。みなさんありがとうございました♪♪

